

柴田良一著『オープンCAEで学ぶ構造解析入門—DEXCS-WinXistrの活用—
(仮)』

2017年3月末刊行予定 ISBN 978-4-254-20164-2 A5判 200頁

発行所 株式会社 朝倉書店

OSM：操作手順補足資料 H290201版

【本資料は、近日刊行予定の上記教科書の補足情報です】

本資料P. 001…………… 目次

本資料P. 002……………【本文2.2 DEXCS-WinXistrの構築手順】

【本文 2.2 DEXCS-WinXistr の構築手順 : P.**】

■■■ Windows10 での DEXCS2016-WinXistr の構築手順資料



本手順資料は、Windows10 上で「FrontISTR+EasyISTR」を用いた構造解析を目指して構成された「DEXCS2016-WinXistr」の構築手順資料であり、本文の「2.2 DEXCS-WinXistr の構築手順 : P.**」に対応している。

(以下のツールの最新版は資料作成時点である)

将来的には、自動インストールを可能にするインストーラーの実現を目指しているが、現時点では本文に解説したように、手作業による構築を暫定版として行う。なおマイクロソフトのクラウド Azure での活用については、本資料に含まれているので参考にして活用してほしい。

DEXCS-WinXistr では、構造解析ソルバー FrontISTR を中心に置き、プリの SALOME とポストの ParaView を統合する GUI 環境として EasyISTR を活用する。なお本システムは、奥田氏作成の FrontISTR と藤井氏作成の EasyISTR を中心に実現しており、これらの公開に感謝の意を表す。

以下の構築手順では、コンパイルやビルドと言った複雑な作業は必要とせず、インストーラーを正確に操作するだけであるが、細かな設定も原則は指示通りを行うことを推奨する。もし変更した場合には正しく設定を読み替える必要がある。

■■■ 前提環境 ■■■

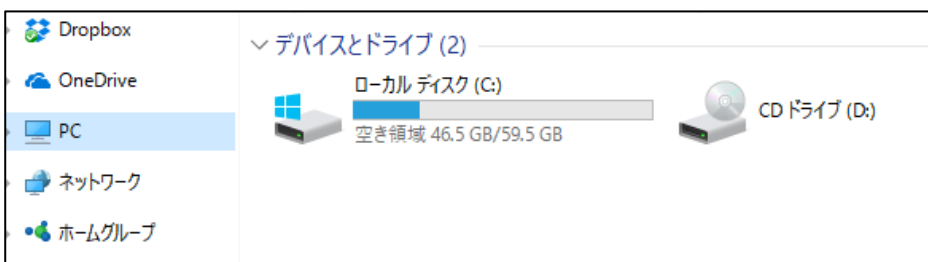
本システムは、標準的な Windows での動作を目指しているが、開発者で検証しているのは以下の計算機環境である。他の同等の Windows 環境であれば動作するものと思われる。Windows のバージョン固有の違いは各自で対応されたい。

- ・ OS : Windows 10 Enterprise 64bit (Windows7 も同様な手順で構築が可能である)
- ・ メモリ : 4 GB 以上を推奨
- ・ HDD : 空容量 4 GB 以上を推奨

確認するには、スタートボタンを右クリックして、メニューの中から「コントロールパネル」を表示して、「システムとセキュリティ⇒システム」で Windows とメモリを確認する。



さらにHDDは、タスクバーのエクスプローラーの「PC」を表示して確認する。



インストールは、基本的に「C:\DEXCS」に導入する全てを配置する。ただし、汎用的な Lhaplus と Python と LibreOffice は初期設定の場所に配置する。

以下の構築では、Windows 以外は全てフリー（ユーザー登録が必要な場合あり）でダウンロードできるツールのみを用いて構築している。

システムで表形式データを扱う Office は LibreOffice を用いる手順を説明する。設定ファイルの変更により MS-Office を用いることもできる。

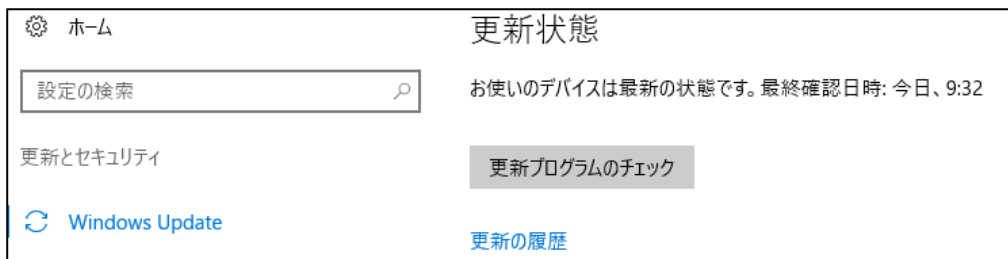
また構築作業において必要となったツールや、C A E活用のためのツールも参考のために導入する。例えば 3D-CAD としては FreeCAD を導入する。

EasyISTR は Python で開発され、動作する Python のバージョンの指定があるので、原則としては最新版ではなく指定した版を利用する。

各ツールの最新版は、暫定版3を作成した H281226 の時点であり、全体としての動作確認が得られたバージョンとなっている。

■■■ 事前準備 ■■■

必ず Windows Update を行ってOSを最新の状態に更新する。可能ならばインストール直後の Windows の方が構築は成功しやすい。更新の手順としては、スタートメニューから設定（歯車のアイコン）を選択し「Windows の設定⇒更新とセキュリティ⇒更新プログラムのチェック」を実行する

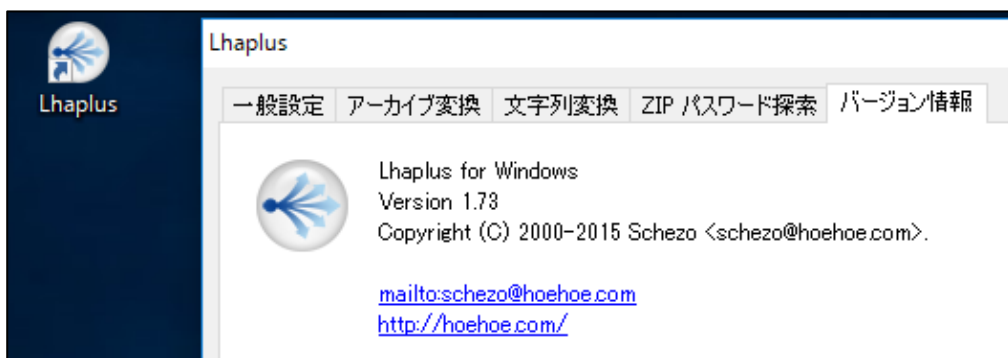


使い込んだ Windows では、各種のライブラリやツールが既に組み込まれていると、以下で導入するツールの動作に支障がでる場合がある。その場合には疑わしいツールを削除するか、不明な場合には別の PC を用いる。

インストールの手順でセキュリティの警告が出る場合があるが、今回の作業で用いた以下のツールは現時点では問題ない。（でも自己責任で活用されたい）

圧縮ファイルの解凍には、最新版 Lhaplus (v1.73) などのツールを用意しておく。

□Lhaplus□ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~schezo/lpls173.exe>



■■■ Python のインストール ■■■

EasyISTR は Python 言語で作られており、下記からインストールする。なお Python は 2 系列と 3 系列があるが EasyISTR の開発は Ver2.7 で進められており、2 系列最新版の 2.7.13 を用いる。

□Python□ <https://www.python.org/downloads/release/python-2713/>

Files より「Windows x86 MSI installer」をクリックし、ダウンロードをする。なお現状は、PyGTK が 32bit のみなので、Python も 32bit(x86)を選択して保存する。x86-64 の 64bit 版でなく必ず 32bit 版を利用する。

Python 2.7.13

Release Date: 2016-12-17

Python 2.7.13 is a bugfix release in the Python 2.7.x series.

[Full Changelog](#)

Files

Version	Operating System
Gzipped source tarball	Source release
XZ compressed source tarball	Source release
Mac OS X 32-bit i386/PPC installer	Mac OS X
Mac OS X 64-bit/32-bit installer	Mac OS X
Windows debug information files	Windows
Windows debug information files for 64-bit binaries	Windows
Windows help file	Windows
Windows x86-64 MSI installer	Windows
Windows x86 MSI installer	Windows

ダウンロードした「python-2.7.13.msi」ファイルをダブルクリックし実行する。（最新版は Ver2.7.13 である。なお以下の記述で表示「\」はキーボードの「¥」に対応している）

「Install for all users」を選択し、「Next >」ボタンをクリックする。

インストールするディレクトリはデフォルト（C:\Python27\）のままにする。

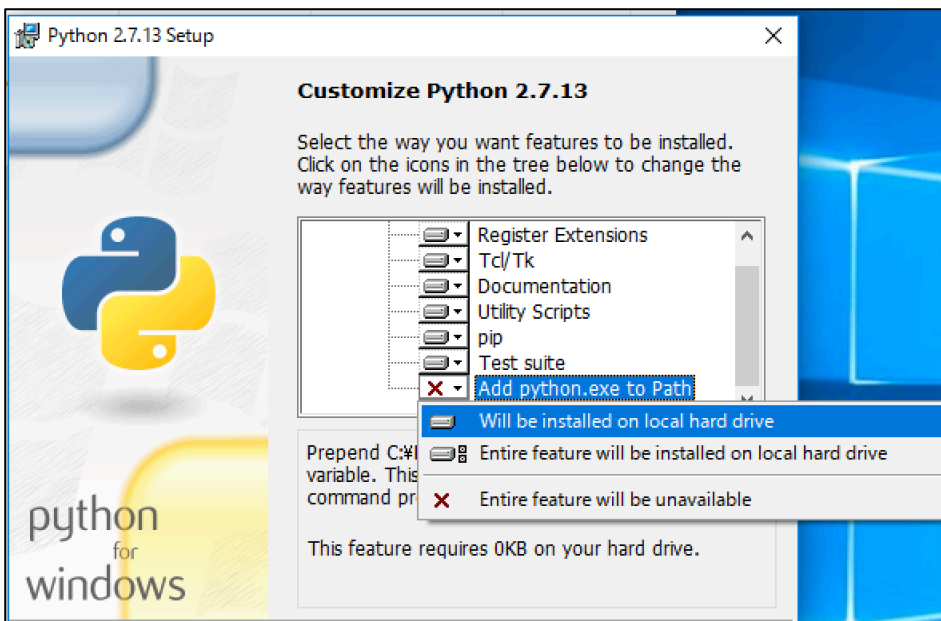
（Python は他からの利用も想定され C:\DEXCS フォルダではなくデフォルトにインストールする）

「Next >」ボタンをクリックして、インストーラーを進める。確認は「はい」を進める。

! インストーラーの設定において、Windows のパス設定を行うために以下が必要です。

Customize Python 2.7.13 の設定で一番下の「Add python.exe to Path」の×印を選択する。

「Will be installed on local hard drive」を選択して、パスを設定する。「Next >」ボタンをクリックして、インストールを開始する。Windows から確認があっても「はい」を進める。終了したら「Finish」ボタンをクリックし、画面を閉じる。



インストール確認のため、スタートボタン□Windows システムツールを開いて、「コマンドプロンプト」を起動し「python」と入力し、Python 2.7.13 が起動すれば完了。

(Python の終了は ctrl+z の入力、Command の終了は exit を入力する)

なおコマンドプロンプトなどは何度も利用するので、メニューの項目をドラッグしてデスクトップにショートカットを作ると便利なので、必要に応じて対応する。

■■■ PyGTK のインストール ■■■

EasyISTR の GUI は PyGTK 用いており、下記からインストールする。

なお最新版は Ver2.24.2 だが、開発ツールの条件より導入は必ず「Ver2.24.0」を用いる。

PyGTK □ <http://ftp.gnome.org/pub/GNOME/binaries/win32/pygtk/2.24/>

「pygtk-all-in-one-2.24.0.win32-py2.7.msi」をクリックし、ダウンロードし保存する。



ダウンロードしファイルをダブルクリックし、インストーラーを実行する。(確認は進めて良い)

すべての設定をデフォルト(既入力の初期設定)のまま「Next」で進め「Install」でインストールを

進めて、「Finish」で終了する。

確認のためにコマンドプロンプトを起動し、「python」と入力して起動させる。「import gtk」と「import pygtk」と入力し、エラーが出なければ完了

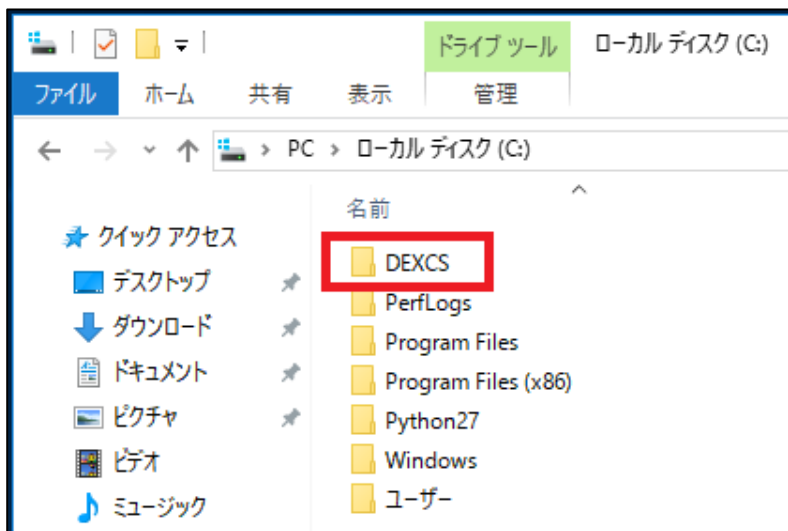
```
cmd コマンドプロンプト - python
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\ryos>python
Python 2.7.13 (v2.7.13:a06454b1afa1, Dec 17 2016, 20:42:59)
Type "help", "copyright", "credits" or "license" for more
>>> import gtk
>>> import pygtk
>>>
```

■■■ DEXCS2016-WinXistr のフォルダ作成 ■■■

DEXCS-WinXistr では、C:\DEXCS フォルダに構成するツールをインストールする。

エクスプローラーを開き、PC のローカルディスク(C:)をダブルクリックする。この中で右クリックし「新規作成□フォルダー」をクリックし、フォルダ名を「DEXCS」とする。



■■■ TeraPad のインストール ■■■

EasyISTR では Linux 共通の設定ファイルを確認するエディタとして TeraPad を用いる。

□TeraPad□ <http://www5f.biglobe.ne.jp/~t-susumu/>

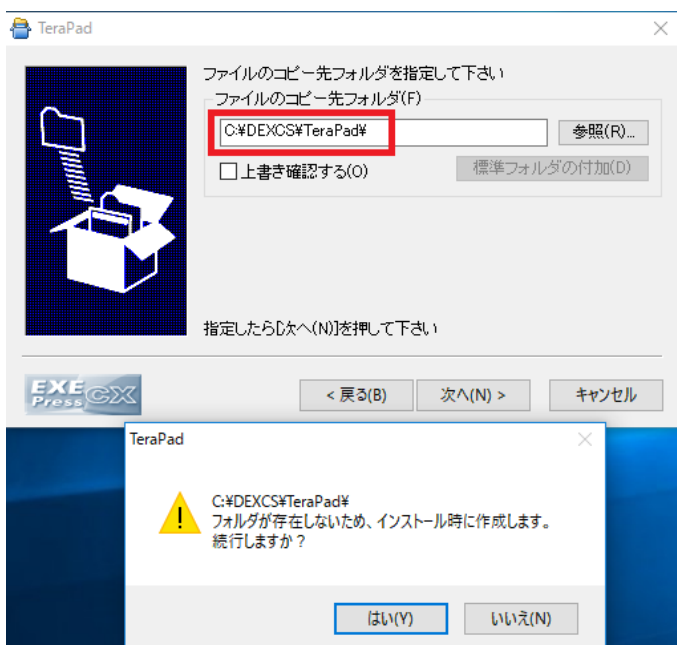
左上の「ソフトウェア」欄から「TeraPad」をクリックして進める。（最新版は Ver1.09）

「ダウンロード」の「tpad109.exe (776KB)」をクリックしダウンロードをする。

●ダウンロード

- **tpad109.exe (776KB) (インストーラ付き) (※1)**
- **tpad109.zip (539KB)**
- [TeraPad用ツール \(ツールの使用例\)](#)
- 選択範囲をCSS・PHP・JavaScriptモードで編集する場合は [ここ](#) の使用例を参考にしてください。
- (※1) どれをダウンロードしたら良いかわからない? という方は「インストーラ付き」をダウンロードすればいいです。
- てるふいさん制作のオリジナルHTMLヘルプと最新版chmヘルプは [ここ](#) からダウンロードできます。

ダウンロードした「tpad109.exe」ファイルをダブルクリックし、インストーラーを実行する。
「次へ」で進め「ファイルのコピー先フォルダ」を「C:\DEXCS\TeraPad\」に書き換える。
フォルダが存在しないため注意が出るので、「はい」で作成して「次へ」で導入作業を実行する。
自動的に TeraPad が起動して、Readme.txt を表示する。デスクトップに TeraPad のアイコンが出来るので、起動を確認する。



■■■ FreeCAD のインストール ■■■

簡単な形状は SALOME で作成可能ですが、複雑な形状作成用としてフリーの3次元CADとして FreeCAD を用意する。また FreeCAD は FEM モジュールを用いると簡易な構造解析が実現できる。

FreeCAD https://ja.osdn.net/projects/sfnet_free-cad/releases/

本来は最新版の Ver0.17 を導入したいが、FEM モジュールにメッシュ作成機能が外されている。

上記サイトより、「その他全ファイル」FreeCAD Windows」FreeCAD 0.16」を展開する。

1つ前の「FreeCAD-0.16.6706.f86a4e4-WIN-x64_Installer-1.exe」をダウンロードする。

FreeCAD

概要 ▾ ダウンロード SourceForge.netのページへ

「Scientific Linux 7.3」リリース [Magazine]



ダウンロードリスト

プロジェクト概要

FreeCADは、CAD、MCAD、CAX、CAE および PLMに適した、汎用性のあるパラメトリックなフィーチャー(形体)に基づいた(ソリッドモデリング) 3Dモデラーであり、機械工学ならびに製品設計を直載の目的としているだけではなく、より広範囲な工学分野(例えば建築など他の技術者に)でも利用できます。100% オープンソースであり、徹底してモジュール化されており、高度な拡張ならびにカスタマイズを可能にしております。FreeCADは、OpenCasCadeに基づいた強力な幾何学カーネル、Open Inventorに準拠する3Dシーン表現モデルが Coin 3Dライブラリおよび広領域なPython APIによって提供されている。インターフェースはQtによって作られている。FreeCADは、Windows、Mac OSX そして Linuxなどのプラットフォーム上で全く同じように動作する。

レビュー

平均
★★★★
投票

あなたの

システム要件

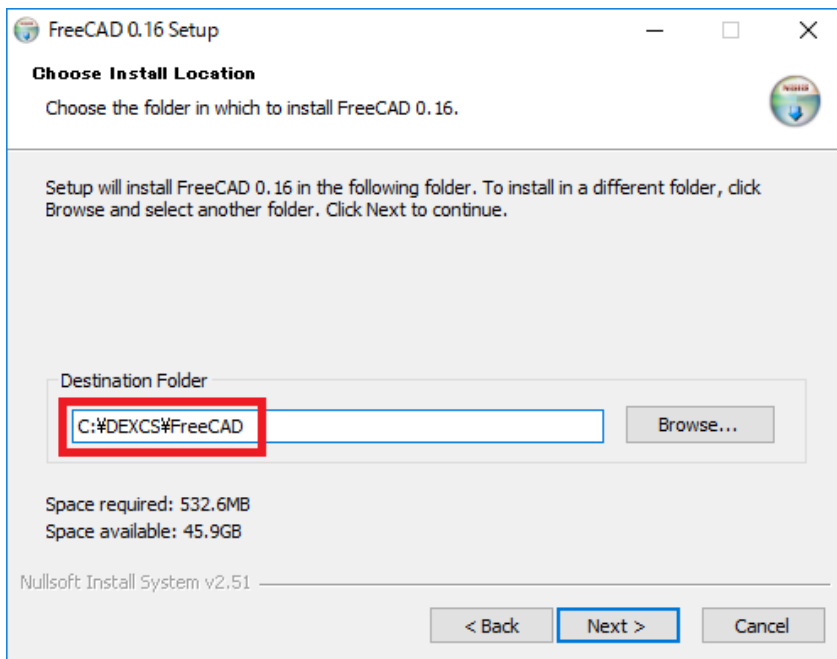
オペレーティングシステム: MinGW/MSYS (MS Windows), POSIX (Linux,BSD,Solaris など), BSD, Windows, Windows XP

ダウンロードパッケージ一覧

最新ファイル(5件)

名前	サイズ
FreeCAD-0.16.6706.f86a4e4-WIN-x64_Installer-1.exe	228.3 MB

❗ FreeCAD の FEM モジュールのソルバに Netgen が組み込まれたら最新版が望ましい。
インストーラーファイルをダブルクリックで進め、ライセンス許諾で「I Agree」をクリックして、インストール先を「C:\DEXCS\FreeCAD」として、ここではバージョン番号はつけずに「Next」で進める。次のインストールの設定では「Add to PYTHONPATH」の設定はそのままチェックせずに「Install」で進め「Close」で完了したら、C:\DEXCS\FreeCAD \bin の「FreeCAD.exe」で起動する。確認したら、右クリックの「送る」よりデスクトップにショートカット「FreeCAD」を作成する。



■■■ LibreOffice のインストール ■■■

EasyISTR では CSV ファイルを扱うため表計算ソフト LibreOffice calc を用いる。（最新版は Ver5.3.0 となる）

☐ LibreOffice ☐ <https://ja.libreoffice.org/download/libreoffice-fresh/>

上記サイトより、メインインストーラー「ダウンロードバージョン 5.3.0」と組み込みヘルプ「オンラインで使えるヘルプ」をダウンロードして保存する。



LibreOffice
The Document Foundation

初めての方に ▶ ダウンロード ▶

ダウンロード / LibreOffice 最新版

直感的で使いやすい LibreOffice

LibreOffice 最新版 (stable)

メインインストーラー

LibreOffice 5.3.0 for Windows が選択されています- 変更しますか?

ダウンロードバージョン 5.3.0

211 MB (Torrent, 情報)

日本語の LibreOffice 組み込みヘルプ

他の言語が必要ですか?

オフラインで使えるヘルプ

12 MB (Torrent, 情報)

「LibreOffice_5.3.0_Win_x86.msi」をダブルクリックで起動してインストールする。「次へ」を進めて、セットアップの種類は「標準」とし、そのままの設定で「インストール」を実行して「完了」で終わる。インストール先は、システムのデフォルトとなり変更できない。

「LibreOffice_5.3.0_Win_x86_helppack_ja.msi」を「次へ」を進め、デフォルトの場所にインストールする。デスクトップの LibreOffice のアイコンからオフィスツールの起動を確認する。

■■■ SALOME のインストール ■■■

解析形状やメッシュの作成などの構造解析のプリ処理として SALOME を用いる。（最新版は Ver7.8.0 で、以前と違い、現在はユーザーアカウントが無くてもダウンロードできるようです。）

☐ SALOME ☐ <http://www.salome-platform.org/downloads/current-version>

「Packages for Windows」の項目から次のインストールファイルをダウンロードする。

「binaries self-extracting archive for 64bits Windows」（下線部がリンク）

（最新版 7.8.0 は異様にサイズが大きくなって、837MB もあります。ダウンロードが大変です）

SALOME 7.8.0 Release Notes

Download SALOME 7.8.0 Release Notes (PDF, 254 KB)

Download SALOME 7.8.0

➤➤ **Binaries for officially supported Linux platforms**

➤➤ **Universal binaries for Linux**

- Download a version for Linux 64-bits (766 MB, md5sum)

Note: 32-bits platforms are not supported.

Universal binary package is a self-extracting archive. Just download the file and execute it to install SALOME. The installer supports options, run it with "-h" to see full list of available options.

This package includes Debian Squeeze layer, all the pre-requisites and SALOME 7.8.0 binaries. It is known to work on Linux distributions like Mandriva, Debian, Ubuntu, SUSE, RHEL, etc ...

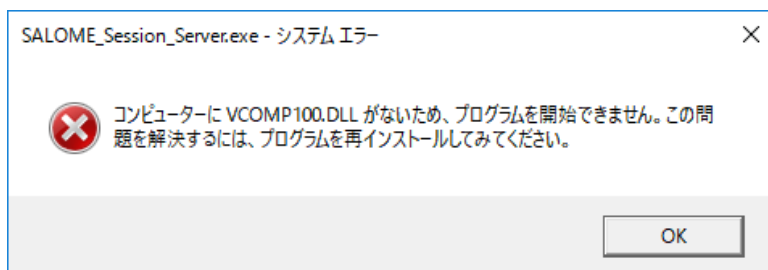
➤➤ **Packages for Windows**

- Download binaries self-extracting archive for 64-bits Windows (837 MB, md5 checksum)

ダウンロードした「SALOME-7.8.0-WIN64.exe」ファイルをダブルクリックし実行する。ファイル展開ツールの「Extract to:」を「C:\DEXCS」に書き換えインストール（展開：Extract）する。（ファイルも大きいので展開もそれなりに時間がかかると思います。）なおインストール先は、他のツールから起動するために設定する重要な情報となるが、特別な理由がなければ指定した設定とする。この場合には自動一括設定が可能となる。

C:\DEXCS\SALOME-7.8.0-WIN64\WORK の「run_salome.bat」で確認の起動をする。最初の起動では、様々な構築作業が行われることがあり、またネットワークの確認が求められたら許可する。SALOME を起動するとき、エラーメッセージ「VCOMP00.DLL がないため...」が出たら、エラーに対応するため、SALOME に動作に必要な DLL を以下よりダウンロードする。

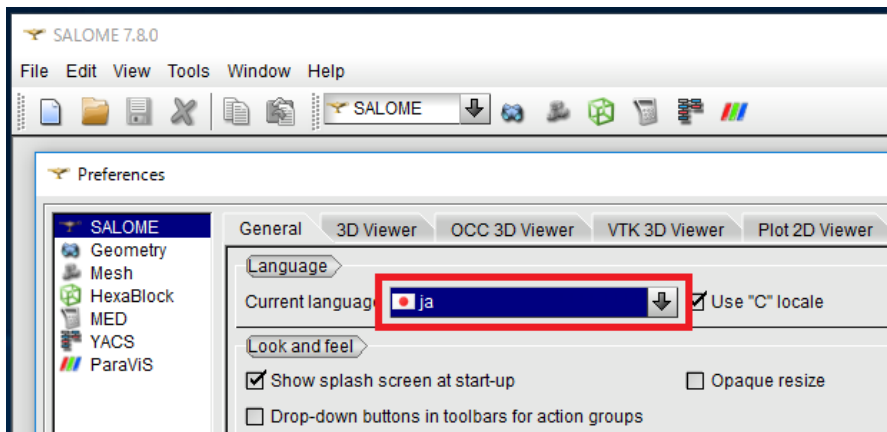
 <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=14632>



上記でダウンロードした「vcredist_x64.exe」を、ライセンスに同意をチェックして、指示に従ってインストールする。なお SALOME のセキュリティの警告は問題ないのでアクセスを許可して進めて、起動を確認する。

「File→Preference」の言語設定で「ja」を選択して「OK」で設定して「File→Exit」で終了してから、再度起動して日本語表示となる。

確認できたら右クリックの「送る」よりデスクトップにショートカット「Salome」を作成する。



■■■ ParaView のインストール ■■■

解析結果の可視化には ParaView を用いる。直接に Windows10 に導入する場合には、OpenGL は対応されるとして最新版 Ver5.2.0 を用いる。しかし、Virtual Box や VMware Player などの仮想環境の動作では OpenGL を用いない Ver4.4 を利用する。

□ ParaView □ <http://www.paraview.org/>

上記サイトの上部メニューの「Download」より、ダウンロードサイトに移動する。

Releases の部分を下記のように合わせる。

Version of ParaView: v5.2 (仮想環境では v4.4 を選択する)

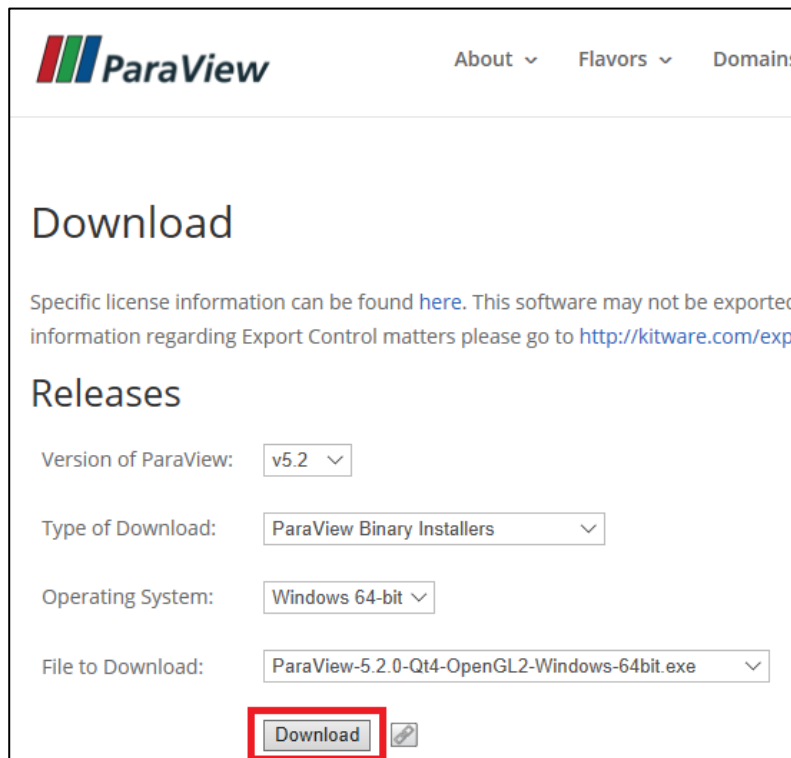
Type of Download: ParaView Binary Installers

Operating System: Windows 64-bit

File to Download: ParaView-5.2.0-Qt4-OpenGL2-Windows-64bit.exe

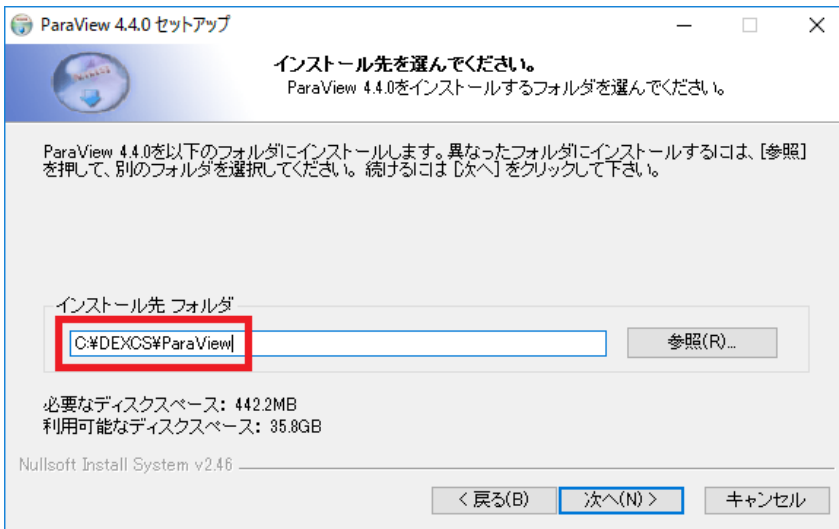
(仮想環境では ParaView-4.4.0-Qt4- Windows-64bit.exe を選択する)

「Download」ボタンをクリックし、インストールパッケージをダウンロードする。



ダウンロードした「ParaView-5.2.0-Qt4-OpenGL2-Windows-64bit.exe（仮想環境では ParaView-4.4.0-Qt4- Windows-64bit.exe）」ファイルをダブルクリックで実行する。

「次へ」で進めてライセンスを「同意」して、インストール先フォルダを「C:\DEXCS\ParaView」に書き換え、あとはそのままの設定で「インストール」して、「完了」する。



スタートメニューから「ParaView」の起動を確認し、ショートカット「ParaView」を作成する。

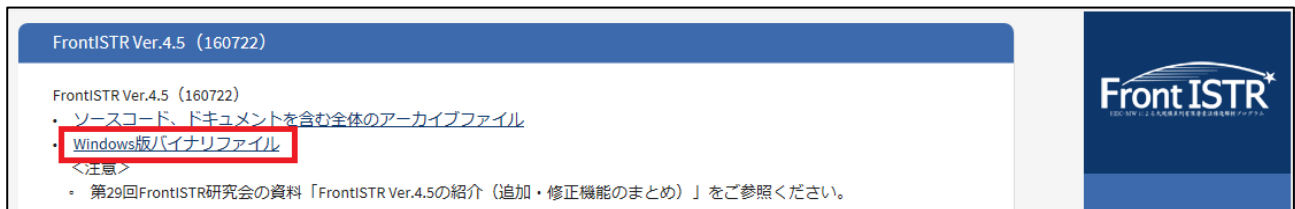
■■■ FrontISTR のインストール ■■■

構造解析ソルバーは FrontISTR を用いる。（最新版は Ver4.5）

□FrontISTR□ <http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/FrontISTR/>

上記の URL よりダウンロードするため。先にユーザーアカウントを取得しておく。

「FrontISTR v4.5 Windows 版バイナリファイル」のインストールファイルをダウンロードする。



ダウンロードした「FrontISTR_win64.zip」を解凍した「FrontISTR_win64」フォルダを用いる。

このフォルダを「C:\DEXCS」フォルダに移動して、名称を「FrontISTR」とする。

コマンドプロンプトで「c:\DEXCS\FrontISTR\fistr1.exe」を実行して確認する。

最初の行に「Failed to open control file」とエラー表示されれば起動は確認できる。

並列処理の MPI よりセキュリティの警告が出たら「アクセスを許可」する。

```

Command
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\ryos>c:\DEXCS\FrontISTR\ifistr1.exe
Feb 03 07:59:40 Error: HECMW-UTIL-E0001: Failed to open control file
(10313) (File: hecmw_ctrl.dat, No such file or directory)

job aborted:
[ranks] message

[0] application aborted
aborting (comm=0x84000000), error 0, comm rank 0

C:\Users\ryos>

```

■■■ easyIstr 本体のインストール ■■■

FrontISTR とプリポストを連携するツール EasyISTR を用いる。(最新版は Ver2.24.170109 だが、後で用いる自動一括修正ファイルの都合で、Ver.2.23-161127 版を用いる)

EasyISTR <http://opencae.gifu-nct.ac.jp/pukiwiki/index.php?AboutEasyISTR>

EasyISTR-Ver.2.23-161127-Linux/Windows 版 : のパッケージファイルをダウンロードする。

The screenshot shows the 'AboutEasyISTR' website with a navigation menu and a list of recent posts. The main content area is titled 'EasyISTRの活用情報をまとめます' and 'EasyISTRのインストールパッケージ版'. Under the 'インストールパッケージ版' section, there is a list of download links for different versions. The link for 'EasyISTR-Ver.2.23-161127-Linux/Windows版 : easyIstr-2.23-161127.tar.gz' is highlighted with a red box.

ダウンロードした「easyIstr-2.23.161127.tar.gz」ファイルを Lhaplus にドラッグ&ドロップして解凍する。展開したデスクトップの「easyIstr」フォルダを「DEXCS」フォルダ内に移動する。動作確認は EaysISTR の設定ファイル等を修正してから行う。

■■■ easyIstr の環境設定の修正 ■■■

4つの設定ファイルを修正する。作業の手順は以下に示す通り。

!ただし全て標準設定の場合には、最後に示す手順で自動的にファイルを置換できる。

☐ 「C:\DEXCS\easyIstr\data\easyIstr_data」の書き換えはTeraPadで行う。

10 行目変更前 「currDir /home/caeuser/CAE/CAE-Fistr/gifuFISTR/send」

変更後 「currDir C:\DEXCS\easyIstr」

13 行目変更前 「materialDB /opt/easyIstr/data/mat.csv」

変更後 「materialDB C:\DEXCS\easyIstr\data\mat.csv」

☐ 「C:\DEXCS\easyIstr\data\usingApp」の書き換え

17 行目先にインストールした LibreOffice を設定する。

MS-Office の場合は自分の PC の office に対応して書き換える。

変更前 「office "C:\Program Files (x86)\Microsoft Office...EXCEL"」

変更後 「office "C:\Program Files (x86)\LibreOffice 5\program\soffice.exe" -calc」

20 行目変更前 「editor "C:\Program Files (x86)\TeraPad\TeraPad"」

変更後 「editor C:\DEXCS\TeraPad\TeraPad.exe」

☐ 「C:\Python27\Lib\site-packages\gtk-2.0\runtime\etc\pango\pango.aliases」の書き換え
ファイルの最後に、「メイリオ="meiryo"」を追加する。

☐ 「C:\DEXCS\easyIstr\easyistr.bat」の書き換え

16 行目変更前 「set HOME=D:\CAE-fistr」

変更後 「set HOME=C:\DEXCS\easyIstr」

17 行目変更前 「set easyIstrPath=D:\share\easyIstr」

変更後 「set easyIstrPath=C:\DEXCS\easyIstr」

22 行目変更前

「set PATH=%easyIstrPath%;%easyIstrPath%\bin;%easyIstrPath%\python;%PATH%」

変更後

「set PATH=%easyIstrPath%;%easyIstrPath%\bin;%easyIstrPath%\python;

C:\DEXCS\FrontISTR;C:\DEXCS\ParaView\bin;%PATH%」

! 上記の設定ファイルを自動的に行う方法

☐ EasyISTR ☐ <http://opencae.gifu-nct.ac.jp/pukiwiki/index.php?AboutEasyISTR>

上記の EasyISTR 公式ウェブの「DEXCS-WinXistr の開発を目指した資料」の項目より、

DEXCS2016-WinXistr 用の修正済ファイル「ModifiedFile-H281226.zip」をダウンロードする

DEXCS-WinXistrの開発を目指した資料⁺

DEXCS2016-WinXistrの構築手順資料 (暫定版3) : [DEXCS2016-WinXistr-Setup-3.pdf](#) ※Windows10ベース

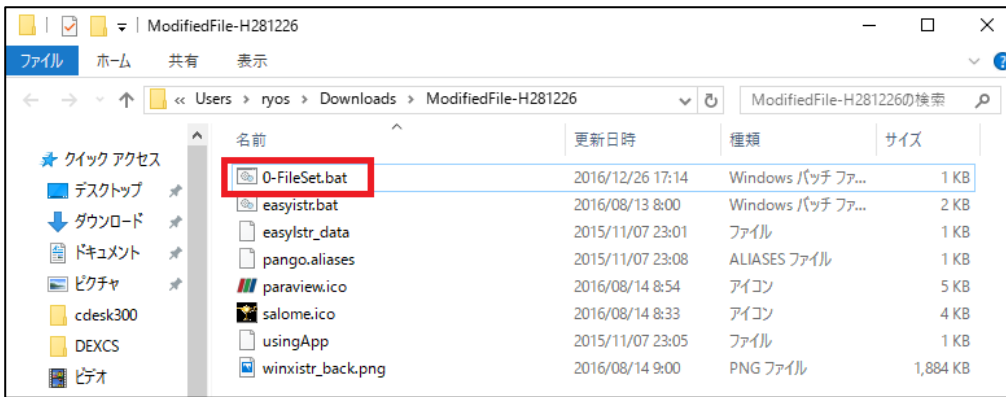
DEXCS2015-WinXistrの構築手順資料 (暫定版2) : [DEXCS2015-WinXistr-Setup-2.pdf](#) ※Windows7ベース

DEXCS2015-WinXistrの構築手順資料 (暫定版1) : [DEXCS2015-WinXistr-Setup-1.pdf](#)

DEXCS2015-WinXistrの構築手順資料 (図解版) : [DEXCS2015-WinXistr構築.pdf](#)

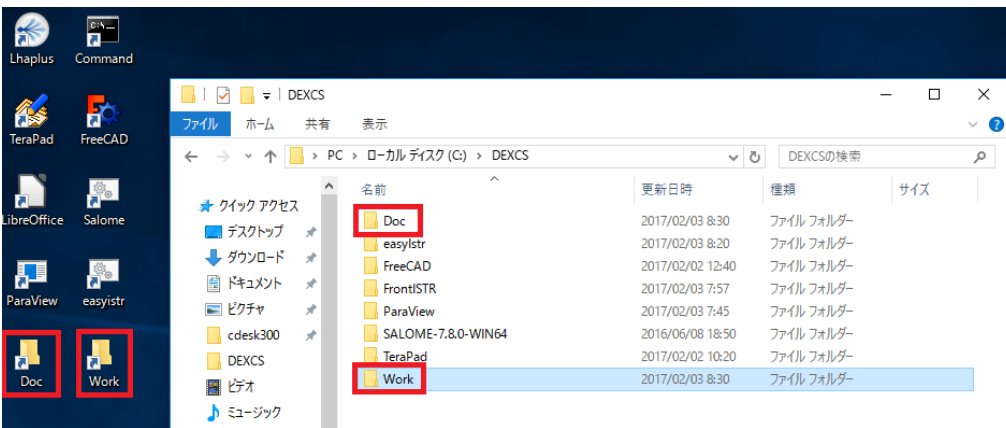
DEXCS2015-WinXistr用の修正用ファイル : [ModifiedFile-H281226.zip](#) [ModifiedFile-H280813.zip](#)

ファイルをダブルクリックで展開して「ModifiedFile-H281226」フォルダの「0-FileSet.bat」をダブルクリックで実行してファイル修正を一括で行う。以上で設定したら展開したフォルダは削除する。いずれかの方法で修正して起動確認として C:\DEXCS\easyIstr の「easyistr.bat」を実行する。起動確認したら右クリックの「送る」よりデスクトップにショートカット「easyistr」を作成する。



■■■ DEXCS-WinIstr の補足準備作業 ■■■

DEXCS-WinXistr の作業用フォルダ「Work」と解説文書用フォルダ「Doc」を C:\DEXCS に作成し、これらフォルダのショートカットをデスクトップに作る。



☐ EasyISTR ☐ <http://opencae.gifu-nct.ac.jp/pukiwiki/index.php?AboutEasyISTR>

上記ウェブのリンクより「DEXCS-WinXistr 補足解説文書パック」をダウンロードし展開した3つのPDFファイルを C:\DEXCS\Doc に置く。(本OSM資料も含まれている)

以下は、本書で想定する DEXCS-WinXistr の表示画面に対応するための補助作業として、以下の手順で、公式デスクトップイメージ(壁紙)とアイコンを設定する。

❗ DEXCS-WinXistr の公式デスクトップイメージ(壁紙)に変更する。

☐ デスクトップイメージ ☐ C:\DEXCS\easyIstr\icons

上記の「winistr_back.png」画像ファイルを右クリックで選択する。「デスクトップの背景として設定」を選択する。

❗ EasyISTR・PraView・Salome のアイコンを設定する。

☐ アイコンファイル ☐ C:\DEXCS\easyIstr\icons

上記の easyIstrW.ico・paraview.ico・salome.ico を用いて、ショートカットアイコンを変更する。

デスクトップの各アイコンを右クリックし、「プロパティ」☐「ショートカット」タブを見る。

「アイコンの変更」を選択して、デフォルトのアイコンがないと表示され「OK」で進める。

標準のアイコン一覧が出るが、上の「参照」を選択する。「C:\DEXCS\easyIstr\icons」を開いて、対応するアイコンファイルを「OK」で選択し「OK」で設定する。

